

## ブドウべと病の防除の徹底について

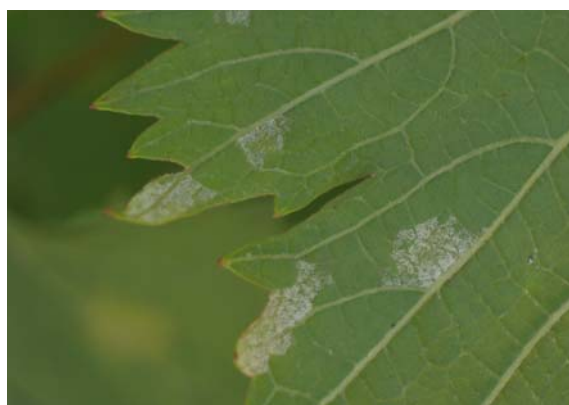
岡山県病害虫防除所による 7 月 1～4 日の巡回調査では、ブドウべと病の発生圃場率が 73.3% で、平年 (36.1%) より高くなっています。広島地方気象台による向こう 1 か月の予報 (7 月 1 日発表) によると、気温は高く、降水量は平年並か少ないとされていますが、降雨が続くと発病が増加する恐れがあります。圃場をよく観察し、防除対策に万全を期してください。

(防除上の参考事項)

- (1) 本病原菌は被害葉で越冬し、5～6月の降雨時に葉裏の気孔から侵入して発病する。感染後、発病までの潜伏期間は7日前後である。
- (2) 発病した葉や果実は伝染源となるため、集めて土中に埋没する。
- (3) 農薬の使用にあたっては、果実の果粉溶脱に対する注意や収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに周辺農作物等への農薬飛散防止対策をとる。



‘ピオーネ’の葉表の症状



葉裏のべと病菌 (白いカビ)



幼果 (小豆大期) の症状



幼果 (大豆大期) の症状

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、  
[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。

なお、これまでご活用いただいていたテレホンサービスは、平成22年度をもって終了いたしました。これまで、永きにわたり、多くのご利用を頂きありがとうございました。病害虫発生予察情報は、引き続き、上記岡山県病害虫防除所ホームページをご利用ください。